寒くなってきました。風邪をひいている人はいませんか。この季節になると渡り鳥が日本にやってきます。今頃日本に渡って来る鳥は「冬鳥」と言って、寒い所が好きな鳥です。秋に日本に渡って来て、春になるとまた寒い所を目指して帰っていきます。

みんながよく知っているのは、白鳥や鶴ではないでしょうか。反対に暖かいところが好きな鳥は「夏鳥」。春に日本に渡って来て、秋になり寒くなると、暖かな地方に帰っていきます。ツバメが有名ですね。

さて、冬鳥の中で、あまり名前を知られていないという鳥さんに、今回ゲストとしてがんばって来ていただきました。こちらです。

（雁のはく製提示）雁＝「がん」という鳥です。「かり」とも言います。三階の理科室からかりてきました。大きいでしょう。日本に来るまで四千キロも旅をしてくるそうです。

青森県には昔から、雁にまつわる言い伝えがあります。雁は三十センチほどの木をくわえて、海を渡って日本にやって来る。途中疲れると、その木を海に浮かべ、その上で休む。

長い旅を続け、青森の浜が見えてくると雁はその木を浜に落とし、湖などを目指して飛んでいく。春になり、また寒い地方に帰る時、青森の浜で、木を拾って飛んでいく。

浜に残された木の数は、病気や他の動物に襲われて命を落とした雁の数。浜の人たちはその木を集め風呂をたき、旅人が来ると風呂に入ってもらい、不運な雁たちが天国へ行けるように祈ったのだそうです。これが「雁風呂」と呼ばれているすてきな言い伝えです。

「雁」という字を省略して作った部首が「がんだれ」。麻婆豆腐の「麻」という字を省略して作った部首が「まだれ」。病気の「病」という字を省略して作った部首を「やまいだれ」と言います。これを知った上で、次の話。

「がんじがらめ」という言葉があります。ひもや縄でぐるぐる巻きにされること。身動きできなくなる様子を言います。

これは、糸や毛糸を巻くときに、左手を「がんだれ」のような形にしてぐるぐる巻きつけ、ある程度の大きさになったら手から抜いて、それを「芯」にしてさらにぐるぐると巻いて球にすること、つまり、「がんだれ」のような形をした手で巻き上げた糸や毛糸の状態が、「がんじがらめ」の語源だという説があるそうです。面白い説ですね。

さて、雁の話に戻ります。雁は四千キロも旅をして日本に来るとお話ししましたが、雁はVの字になって飛ぶことが多いようです。

鳥は空を飛ぶとき、羽をパタパタ上下に動かします。この羽ばたきで羽が空気を押し下げると、その外側に上に上がる力（上昇気流）が生まれるのだそうです。斜め後ろを飛ぶ鳥が、この上昇気流にうまく乗ると、体を持ち上げる力によって、少ないエネルギーで飛べるのだそうです。

逆に、先頭の鳥はかなりのエネルギーを使います。ですから、先頭の何羽かは、最も力の強い大人の鳥がなり、交代しながら飛びます。後ろの方で飛ぶのは、子どもやお年寄りの鳥が多いようです。本当に強いものは、力を見せびらかしたり、乱暴したりするのではなく、仲間のためにその力を使うのですね。それが本物の勇気です。

雁はVの字の飛び方の良さを本能や経験から知っていて、群れになって飛んでくるので、一匹で飛ぶ時よりもはるかに長い距離を飛んで来ることができるのですね。賢いものです。

もうすぐハーフターム・ホリデーに入ります。今回のハーフターム・ホリデーは、どこかに出かけて、楽しい思い出を作れるチャンスがあるかもしれません。

君たちは学校を離れて、それぞれの家に帰っていきますが、渡り鳥のようにまた学校に戻ってくるとき、雁の本物の勇気のことを思い出してくれたらうれしいです。今週一週間頑張って、よいハーフターム・ホリデーを過ごせるようにしてください。

（立教小学校校長　田代　正行）